



いよいよ3学期が始まりました。受験、卒業式など、大切な節目の学期となりました。まだまだ、寒い日が続いています。体調管理には十分に気を付けてください。

★今年の干支(えと)は辰(たつ)。「辰」という字には本来、「竜/龍」の意味は含まれず、あくまで「十二支」におけるシンボルとして「竜/龍」が割り当てられているそうです。今月は、そのシンボルの「龍」にあえてこだわって、天高図書から探してみました。結構あるもんなんです。本を選ぶ際の参考にしてみてくださいね。

## タイトルに「龍/竜」がつく本！！

☆『龍に恋う』1巻～5巻 継続中  
植草家守 著 KADOKAWA

14歳で帝都に出て来て、働き始めた珠子ですが、仕事が続かず転職10回目。仕事を斡旋してくれる口入屋が見つからず、今夜は野宿かと思っていた時、妖怪のいたずらに巻き込まれ、危うく警察へ連れていかれそうになりました。そんなピンチをちょっと奇妙な恰好をした男・銀市に救われます。彼は、口入屋を稼業としていて、人間だけでなく、帝都にやってきた妖怪の仕事も斡旋しているらしいのです。珠子も実は、妖怪が見える数少ない人間で、その事を知った銀市は、珠子をしばらくの間、従業員として雇い、口入屋を手伝わせることにしました。怪異と人間との間に起こる、不思議なでき事を解決してゆく、ミステリー仕立てのお話になっています。



☆『龍ノ国幻想 神欺く皇子』1巻～6巻 継続中  
三川みり 著 新潮社

周りを他国に囲われ、海のない国・龍ノ原は唯一龍が住む国でした。主人公・日織とその姉・宇預は姉妹仲良く、穏やかに過ごしていましたが、宇預の輿入れということで、離れ離れになることとなり、姉への贈り物を渡したくて、馬を走らせます。しかし、輿入れとは、真っ赤なウソで、龍の声が聞こえない姉は、何者かによって惨殺されてしまいます。その国の理、つまり法律では、龍の声がきこえる女は生き残り、聞こえない者は、闇に葬られ、また、逆に龍の声が聞こえる男は、殺されてしまうのです。この事実を知った日織は女である事を隠し、宮廷へと入り込み、この理不尽な定めを変えるべく、皇位を継承しようと画策するというお話です。美しい日織の表紙がとても印象的です。



☆『あまねく神竜住まう国』 荻原 規子著 徳間書店

源頼朝が主人公のお話でした。荻原さんの『風神秘抄』と繋がりのある作品です。戦いに破れ、一人伊豆に流された頼朝は、生きる希望を見いだせないまま、日々を過ごしていました。もう少しで命を奪われるところに、亡き父を救った一族の男・草十郎が現れます。この出会いが、頼朝の運命に光を灯す事になります。今回の竜は伊豆にすまう神である竜・神竜で、この竜と対峙することで、伊豆の地に根を下ろし、少年だった頼朝が鎌倉殿となってゆく姿を描いています。歴史上に実在する人物を登場させたファンタジーです。歴史にあまり興味のない人でもどんどん読み進める事ができる作品です。



☆『龍のすむ家』 クリス・ダレーシー著 竹書房

「下宿人募集!ただし、子どもとネコと龍が好きの方。」すぐにでも下宿先を見つけなければならないデーヴィットは、この家の持ち主・ペニーケトル夫人を尋ねました。その家は、張り紙通り、おしゃべりな子どもと1匹のネコとたくさんの龍の置物がありました。そのすべてが陶芸家であるペニーレインさんの作品でしたが、なんだか普通の置物ではないような?生きているような?不思議な龍たちだったのです。陶器の龍とデーヴィットの冒険ファンタジーです。小学生から楽しめる児童文学ですが、大人の私が読んでも十分読み応えがあります。挿絵もとても素敵なので、併せて楽しんでください。全5巻ある、長編大作です!(!^)!



I部 <3年生のみなさんへ>

**3年生の図書返却は**

**1月24日(水)までに**

それ以降の貸出は入試に必要な場合のみです。図書館の本が必要な人は、担任の先生の許可をもらい、担任の先生の名前で借りてください。その際、返却日は必ず守ってください。返却日を守れない人が多くて、毎年大変困っています。忘れずに返却してください。ご協力お願いします。